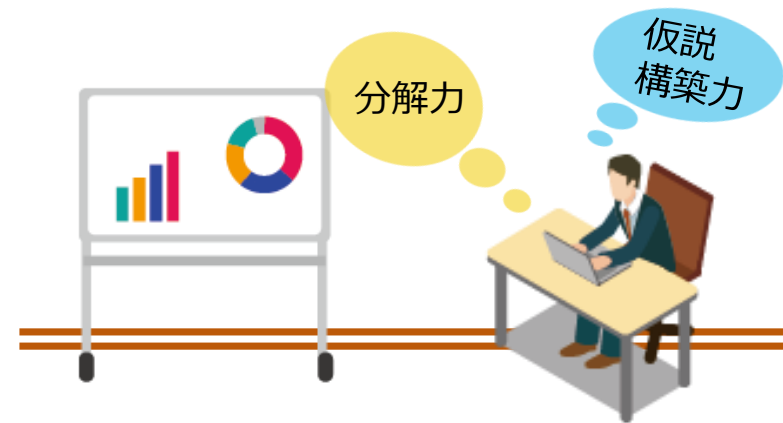


【ご提案】

「論理的思考アセスメント」

～ロジカルに考える力を、4つの能力、14項目に分解し評価する



2025年
株式会社インソース

1. 概要と目的

1. 概要と目的

論理的思考アセスメントとは？

ロジカルに考える力を複合的な思考力であると捉え、分解して評価するアセスメントです。

論理的思考力を、単純に「物事を筋道立てて考えていく単一の力」と捉えず、複合的なスキルとして分解します。14項目を測定する設問により、論理的思考力を点数で可視化します。

論理的思考/ロジカルシンキングが求められる理由

私たちはビジネスパーソンにとって「論理的思考」は“OS”のようなものと考えます

ビジネスにおいては、自身の考え方の筋道を通すだけでは不十分。むしろ相手からの視点への意識・関心が重要です。つまり、相手も共感、納得できる流れに近づけていくことが成果へのポイントになります。

考え方の異なる人との間に「互換性」を持たせてくれているのが「論理性」です。論理的思考力とは、複雑な問題を客観的・本質的に見つめ、矛盾や飛躍なく筋が通るよう整理することを指します。この力は、**パソコンのOS（Operating System）に例えられる、必須の基本スキル**と言えるでしょう。

問題を正確に捉え、根本原因を特定しやすくなることで、相手の意見も正確に理解できるようになります。結果、自分の主張を的確に伝える力が向上するため、「説得力」が高まり、**交渉や伝達の場面でもスムーズに進めることが可能になる**のです。

1. 概要と目的

論理的思考アセスメントの主な目的

① 個人や全メンバーの課題や強みを可視化し、人材教育に活かす

対象のメンバーの論理的思考力を可視化することで、弱点・課題や強みに合わせて教育を企画することができます。また、スキルを14項目に分解して評価を行うため、個人や上司が結果を見る際も、ピンポイントで課題の項目に合わせて今後の対策が立てやすい分類となっています。

② 集合研修や動画学習の動機付けや、効果測定に使用する

例えば、論理的思考アセスメントを受検したうえで、ロジカルシンキング研修を実施することで、研修受講前の動機付けをすることができます。また、研修後に実施することで学習効果を高めたり測ったりすることもできます。

③ 繰り返し実施することで、継続的な人材育成を実現

複数の設問パターンがございますので繰り返し実施することができます。これにより例えば、アセスメント結果をふまえた教育・研修を実施後、一定期間実務を経てから再度アセスメントを実施して変化を測定できます。これらの結果から次の教育・研修を実施していくことで、継続的に論理的思考を強化することができます。

※設問数は変わらず受検者によって、設問や順序が異なって出題されます。全員同じ設問で固定することもできます。

2. サービス内容

2. サービス内容

調査内容

「論理的思考力」を、基本～応用編まで4つの能力、14項目で評価

ビジネス現場で必要とされる「論理的思考力」を、基礎～応用の内容に応じて、4つの能力象限と14項目で評価します。設問数は12問であり、1問に対して複数の項目の点数集計に影響します。（1問1項目ではなく、1問に対して複数項目の結果と結びつけることで、精度を高めています）。

<4つの能力と主な設題のテーマと概要>

分類	能力	テーマ	概要
基礎	分解力	1 洗い出す力	物事を考える際、必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方
	分解力	2 分解する力	主張をサポートするための根拠を分解し、整理する考え方
	分解力	3 類推する力	ある事柄から、物事を推測する考え方
	仮説構築力	4 演繹的に推論する力	一般的・普遍的な前提から、より個別的・特殊な結論を導き出す考え方
	仮説構築力	5 帰納的に推論する力	個別的・特殊な事例から一般的・普遍的な規則・法則を導き出す考え方
	仮説構築力	6 仮説を立てる力	何らかの論理規則に基づいて既知の事柄から未知の事柄を予想する考え方
	分析力	7 概算数値を出す力	スピードが求められる場面において、大雑把な数字をなるべく正確にとらえる力
	分析力	8 因果関係を捉える力	構成要素間の関係を分かりやすく整理する力
	分析力	9 本質を見極める力	考えるべき問題を、深堀り、構造化して可視化することで問題の本質を捉える考え方
応用	分析力	10 データを読解する力	主観や誤ったデータで判断するのではなく、正しく理解するための考え方
	実践力	11 問題を解決する力	理想と現状のギャップを解消する力
	実践力	12 提案する力	自分の主張や提言に、筋道が通っていて納得感を出す力
	実践力	13 折衝する力	利害関係が一致していない相手とのやり取りの末、双方が納得するよう折り合いをつける力
	実践力	14 生産性を向上する力	同量のインプットに対して、アウトプットの割合を増やす力

2. サービス内容

設問イメージ

- 設問数※ 12問
- 所要時間 15分～25分程度
- 設問形式 WEB上で回答（4択形式） ※専用のアセスメントWEB環境より回答

問題例	選択肢	配点例
【分解力】 次の選択肢のうち、最も重複や抜け漏れがない、顧客の分類方法はどれでしょうか。	①申込顧客を、新規にお申し込みをいただいたお客さまと、過去にお申し込みいただいたお客さまに分類する	2
	②申込顧客を、職業が、学生、社会人、主婦、その他に分類する	0
	③申込顧客を、年齢が、～10代、～20代、～30代、～40代、～50代、60代～に分類する	2
	④申込顧客を、家族構成で、単身、夫婦のみ、夫婦と子供、その他に分類する	1

4つの能力の配点ウェイトと出題の調整が可能です。
例えば、分解力：仮説構築力：分析力：実践力を「3：4：3：4」の割合から「3：2：3：5」など、任意の割合に変更することが可能です。
※象限の追加や、設問の追加等は個別カスタマイズとなります。

各設問ごとの配点についても弊社で設定しているベースの配点をもとに、ご相談の上、変更が可能です。（オプションにて対応）

2. サービス内容

対象者

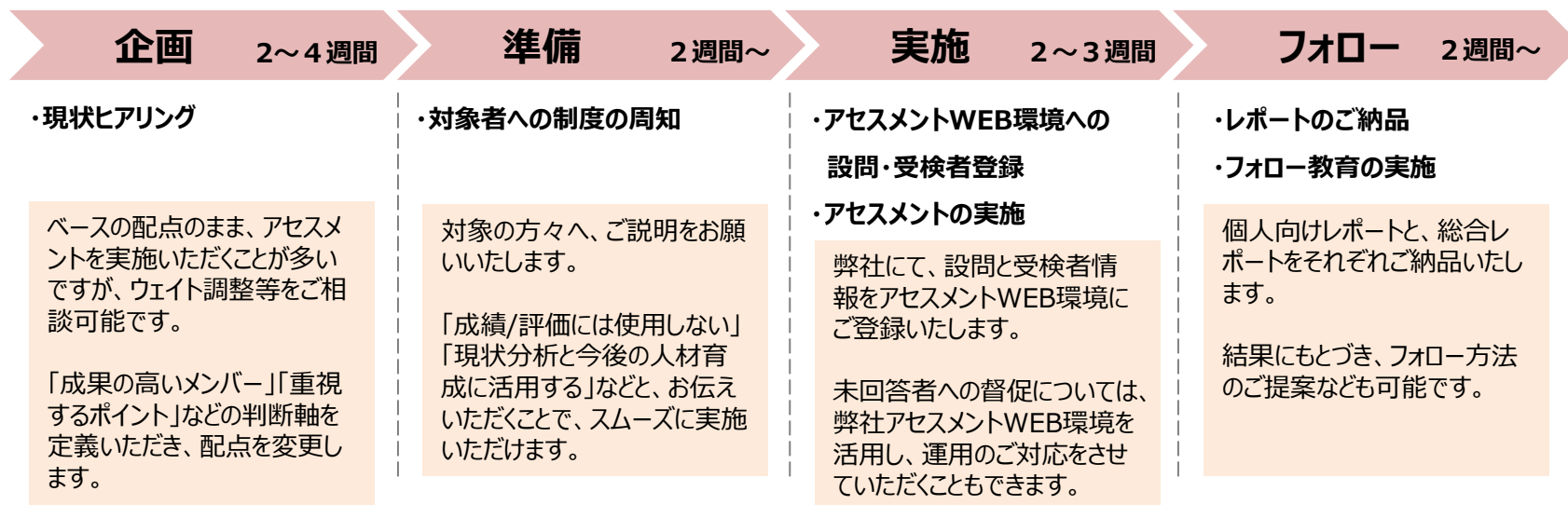
全従業員（主に、若手～中堅）

（「階層別テスト」、「営業スキルアセスメント」などとも合わせてご活用ください）

実施期間

約2ヶ月（目安）

（調査項目の配点調整などからレポートの納品まで）



2. サービス内容

納品レポートイメージ

全体の得点を記載した総合レポートと、個人ごとの得点を記載した個人レポートをご納品いたします。

【納品方式】

PDFファイルをご担当者様へ納品

【主な記載事項】

◆総合レポート

- ・平均総合得点
- ・平均総合得点率
- ・各項目ごとの平均得点

◆個人レポート

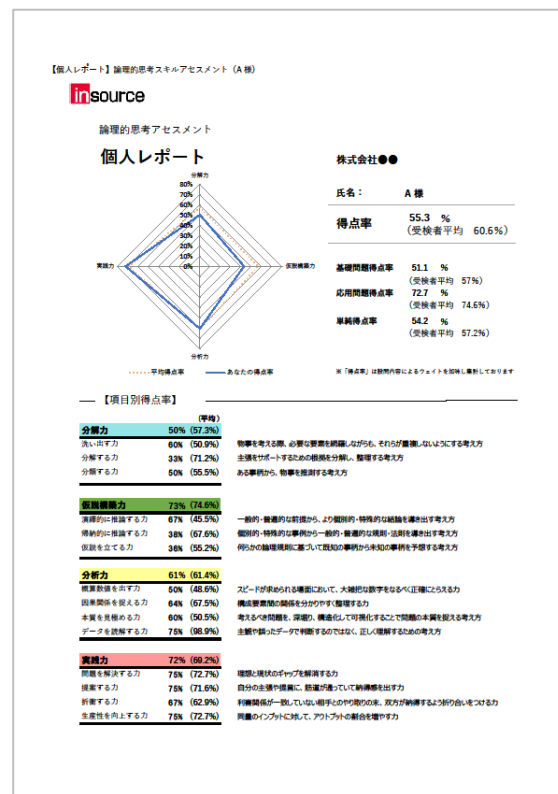
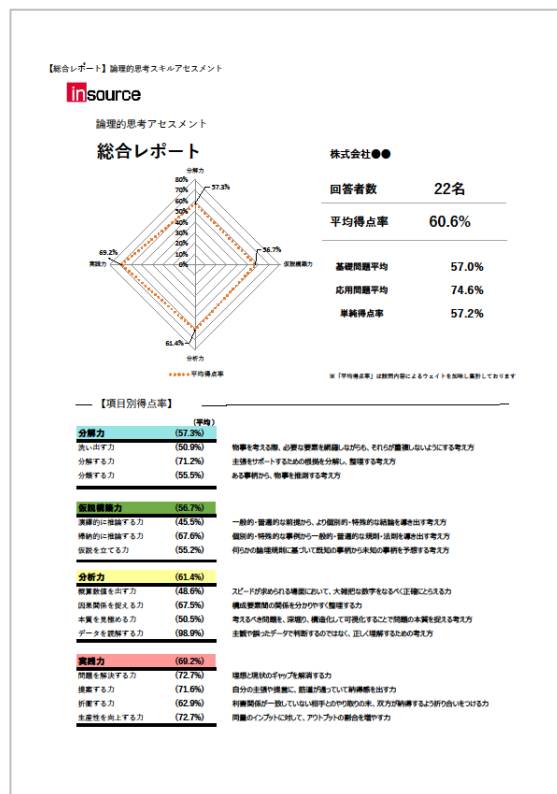
- ・総合得点
- ・得点率
- ・平均との差異（レーダーチャート）
- ・各項目ごとの得点

◆結果レポートの見方

◆解答・解説

※受検結果の生データ、及び全体得点表はエクセルで納品いたします。

※管理者に一括で納品させていただきますが、受検者さま各人にアセスメントWEB環境上でレポートを配布するオプションもございます



※レポート画像はイメージです。

3. ご活用事例

3. ご活用事例

アセスメント後のフォロー研修例

論理的思考アセスメントの結果や、課題のヒアリングなどにより、おすすめの研修をご提案いたします。

能力	テーマ	概要	研修名
分解力	1 洗い出す力	物事を考える際、必要な要素を網羅しながらも、それらが重複しないようにする考え方	要因分析研修～問題を因数分解し根本解決へ導く
	2 分解する力	主張をサポートするための根拠を分解し、整理する考え方	なぜなぜ分析研修～考えるクセをつける
	3 類推する力	ある事柄から、物事を推測する考え方	俯瞰力強化研修～多面的に考え、全体を見渡すメタ思考力を鍛える
仮説構築力	4 演繹的に推論する力	一般的・普遍的な前提から、より個別的・特殊な結論を導き出す考え方	ロジカルシンキング研修
	5 帰納的に推論する力	個別的・特殊な事例から一般的・普遍的な規則・法則を導き出す考え方	情報活用力養成研修～情報の収集・整理・分析編
	6 仮説を立てる力	何らかの論理規則に基づいて既知の事柄から未知の事柄を予想する考え方	仮説構築力向上研修
分析力	7 概算数値を出す力	スピードが求められる場面において、大雑把な数字をなるべく正確にとらえる力	情報活用力養成研修～情報の収集・整理・分析編
	8 因果関係を捉える力	構成要素間の関係を分かりやすく整理する力	図解力向上研修～情報を整理し、分かりやすくする編
	9 本質を見極める力	考えるべき問題を、深掘り、構造化して可視化することで問題の本質を捉える考え方 応用	クリティカルシンキング研修（実践編）～リーダーとしての思考力を強化する

3. ご活用事例

アセスメント後のフォロー研修例

論理的思考アセスメントの結果や、課題のヒアリングなどにより、おすすめの研修をご提案いたします。

能力	テーマ	概要	研修名
分析力	10 データを読解する力	主観や誤ったデータで判断するのではなく、正しく理解するための考え方	<ul style="list-style-type: none">・ はじめてのデータ分析研修～データを読み解く力を習得する・ ビジネスデータの分析研修～職場で活かせる統計の基礎とデータ活用法を学ぶ
実践力	11 問題を解決する力	理想と現状のギャップを解消する力	<ul style="list-style-type: none">・ ロジカルシンキング研修（実践編）～論理的思考による問題解決・ 課題設定力研修～主体的な問題解決のための手法とマインド・ 経営者育成研修～経営的視点から課題を発見し解決策を立案する
	12 提案する力	自分の主張や提言に、筋道が通っていて納得感を出す力	<ul style="list-style-type: none">・ 論理的で分かりやすい文書の書き方研修・ 提案書の作り方研修・ ソリューション提案力向上研修～顧客視点で最適解を導き出す
	13 折衝する力	利害関係が一致していない相手とのやり取りの末、双方が納得するよう折り合いをつける力	ディベートで鍛える説得力強化研修
	14 生産性を向上する力	同量のインプットに対して、アウトプットの割合を増やす力	<ul style="list-style-type: none">・ 業務改善研修・ 営業力強化研修～論理的思考で営業活動を考える

3. ご活用事例

アセスメント後のフォロー研修例

【例 1】 ロジカルシンキング研修（実践編） ～論理的思考による問題解決

◆概要：

目の前に立ち現れる問題を合理的・円滑に解決していく、ロジカルシンキングの実践方法を学ぶ

◆対象者：

・身につけた論理思考力を使いこなせるようになりたい方

◆よくあるお悩み・ニーズ：

- ・ロジカルシンキングの基本は理解できたが、どのように活用すればよいかわからない
- ・合理的な問題解決の手法を考えるのが苦手
- ・考えた解決策をまわりの人に納得してもらえない

◆到達目標：

- ①様々な情報を収集・整理し、問題を正しく捉えることができるようになる
- ②問題を引き起こしている原因を筋道立てて追及できるようになる
- ③合理性の高い解決策を導き出せるようになる
- ④解決策を導入するために、多くの人の賛同や協力を得る、納得性の高い説明ができるようになる

プログラム案

1. なぜ論理的思考力が求められるのか

- (1) 仕事とは問題解決の連続である
- (2) 問題解決における論理的思考の重要性
- (3) 論理的であることの定義
- (4) 論理的であるための3要素
- (5) 求められる「全体像」と「筋道」

2. 問題解決のプロセスと論理的思考

3. 問題を発見する

- (1) 問題の整理はモレなくダブリなく
【ワーク】問題をM E C Eを意識してグループ分けをする
- (2) 問題の全体像をつかむ ～ツリー構造 I
【ワーク】ツリー構造で表現する

4. 原因を追究する

- (1) 原因を徹底的に考える
- (2) 原因を系統別に追究する ～特性要因図
【ワーク】原因の追究を、特性要因図を使って行う

5. 解決策を選定する

- (1) 納得感のある解決策へのつなぎ方 ～帰納法と演繹法
【参考】コンビニでプレミアムデザートを販売するまでの例
【ワーク】帰納法や演繹法を応用して、有効な解決策を導く
- (2) 判断を助ける知恵 ～フレームワーク
【ワーク】マトリクスを使って、解決策に優先順位をつける

6. 関係者を説得する

- (1) 焦点を見定めて伝え方を変える ～So what?/Why so?
【ワーク】相手に納得・同意してもらえるよう「結論」を伝える
- (2) 全体観を崩さずに時間を整理する ～ツリー構造 II

7. まとめ

- 【ワーク】自身の職場でどのようなことを進めていくか

3. ご活用事例

アセスメント後のフォロー研修例

【例2】 仮説構築力向上研修

◆概要：

ソリューション提案や課題解決など業務のあらゆるシーンで必要とされる仮説の構築・検証ができるようになる

◆対象者：

- ・仮説思考力を身につけ、仕事の効率や質を高めたい方
- ・自分のこれまでの仕事の仕方や考え方を改めて見直したい方
- ・出来るだけ短時間で正しい解にたどり着きたい方

◆よくあるお悩み・ニーズ：

- ・何が正解かわからず迷ってしまう
- ・考えすぎて行動に移せない
- ・いったん考え出した解が正しいかどうか悩んでしまう

◆到達目標：

- ①原因と結果の関係で捉える、視点を変えるなどの仮説思考を定着化させる思考習慣ができる
- ②帰納法、トレンド思考、フェルミ推定を使って仮説構築ができる
- ③限定質問と拡大質問、ロジックツリー、P D C Aサイクルで仮説検証ができる

プログラム案

1. なぜ仮説思考が求められるのか

【ワーク】担当業務において、「仮説」を立てて仕事をする場面を挙げる

- (1) ビジネスに求められる「スピード」と「効率」
- (2) 求められるのは「実用範囲の精度」
- (3) 仮説思考はトライアル&エラーの繰り返し

2. 仮説思考に不可欠な「経験」の蓄積

- (1) 「直感」で仮説を立て、「論理」で検証する
 - (2) 直感とは過去の経験の瞬間検索
 - (3) 経験則の応用力が仮説構築力
 - (4) 感情を伴いながら経験を重ねることが大事
- 【ワーク】自分の中で「パターン」として定着している仮説を共有する

3. 仮説力を磨く思考習慣① ～常に「なぜ？」を考える

- (1) 常に原因と結果の関係で捉える
- (2) 目的意識の強さが「なぜ」を生む

4. 仮説力を磨く思考習慣② ～視点を変える

- (1) いつもの自分と違う見方をする
 - (2) 視点を変える3つのパターン
 - (3) ディスカッションでひらめきを呼び込む
- 【ワーク】事例を読んで、様々な視点からその理由の仮説を立てる

5. 仮説を構築する① ～帰納的思考

- (1) 仮説思考で活躍する論理展開手法
- (2) 帰納法を使って「経験」から「経験則」を導き出す

6. 仮説を構築する② ～トレンド思考

- (1) 過去の延長上に未来を予測する
 - (2) いち早くトレンドを見つけるためのデータ分析
- 【ワーク】グラフを分析して、数値の仮説を立てる

7. 仮説を構築する③ ～フェルミ推定

- (1) 今ある情報だけで推定値を捻り出す
 - (2) フェルミ推定のステップ
- 【ワーク】フェルミ推定を用いて、数値の仮説を立てる

8. 仮説を検証する① ～限定質問と拡大質問

- (1) 何が言えれば仮説を裏付けられるか
- (2) 可能性を限定質問で絞り込む
- (3) 絞り込まれた範囲の中で拡大質問をする

9. 仮説を検証する② ～ロジックツリーの活用

- (1) 否定すべき他の説を列挙する
- (2) 原因追究型のロジックツリー
- (3) 確認事項をチェックリスト化する
- (4) Y E S / N O チャートにすることで仮説検証を自動化する

10. 仮説を検証する③ ～P D C Aサイクル

- (1) 仮説検証サイクル = P D C Aサイクル
- (2) 「小さく」「早く」「何回も」がポイント

4. 価格、その他

4. 価格

(税込)

論理的思考アセスメント			
初期費用			¥0
設問			12
お1人あたり料金(※1)			¥5,500
①基本サポート・納品物	①-1	受検者設定代行	¥0
	①-2	(弊社からの) 受検案内メール	¥0
	①-3	回答生データのご提供	¥0
	①-4	総括レポート、個人別レポート	¥0
	①-5	能力項目ウェイト調整	¥0
	①-6	(弊社からの) 回答督促メール (1回)	¥0
	①-7	未回答者の定例報告	¥0
オプション			
②設問カスタマイズ	②-1	配点調整、時間制限、設問順番変更等	¥ 110,000~
	②-2	レポートに影響しない設問の文言・選択肢修正 (/設問)	¥22,000
	②-3	その他、設問追加、削除等の調整 (個別お見積り) (※2)	¥165,000~
③督促メールの追加	③-1	(弊社からの) 督促メール追加 (/回・人)	¥110
④レポートカスタマイズ	④-1	属性/部署別レポート (/毎)	¥25,000
	④-2	受検者に個人レポートをシステム内で配布(※3)	¥ 55,000~

※1 それぞれ、最低10人分の料金がかかります

※2 修正内容の範囲によって異なりますので、表示の料金を最低として個別のお見積りとなります。

※3 1~100名：55,000円、101~200人：110,000円、201人~300人：165,000円、301人以上 220,000円の料金となります。(いずれも税込)

その他カスタマイズについては、別途お見積りいたします

4. Q&A

Q. アセスメントWEB環境の利用可能期間を教えてください。

A. 原則アカウント発行ご案内日から6か月間です。

サービス開始時に、お客様よりいただいたユーザ情報をもとに、本サービスのユーザアカウントをユーザ人数と同数作成いたします。

実際の、回答可能期間は個別に定めるものとしますが、アカウントの利用期間は、アカウント発行日から6か月間となります。

※途中で追加したユーザアカウントも初期アカウント発行日からカウントいたします。

利用期間経過後は、自動的にユーザアカウントおよび管理者アカウントは利用できなくなります（ログインできなくなります）

5. ご提案に際しての確認事項

5. ご提案に際しての確認事項

- Q 1. 論理的思考力アセスメントサービスのご利用を検討されている理由や背景をお聞かせください。
- Q 2. アセスメントの対象者についてお聞かせください。
(人数と肩書、現時点でご担当者さまが感じていらっしゃる課題など)
- Q 3. アセスメント結果の活用方法について、お考えがあればお聞かせください。
(個人にフィードバックする、研修企画に活用するなど)
- Q 4. 現時点でのご予算感はございますでしょうか
(アセスメントそのものと、そのあとのフォローアップ策をあわせて)
- Q 5. 想定されているスケジュール感をお聞かせください。
(アセスメントの実施時期と、その後のフォローアップ研修などの実施時期)